

連載

- 10 世界のキーパーソン
- 11 国内人情情報
- 27 Book Reviewing Globe
- 40 テイレシアスの食卓―河井健司
- 42 大往生考
- 51 西風
- 59 交差点―読者の声・編集者の声



無銭飲食や接待疑惑など、大半の罪状は軽い。根が深いのは「特定秘密」だ。米英ら友好国の不信はさらに深まり、協力関係に水を差した。「伝統墨守、唯我独尊」と評される海自の体質は容易に変わらない。(110頁)

- 98 社会・文化●情報カプセル
- 100 堂島コメ先物市場「復活の意味」
- 102 タバコ企業と医療者「禁断の癒着」―喫煙大国「日本の恥部」
- 104 「百ワイン」が食卓の主流に―量も需要も「赤」を上回る新時代
- 106 米兵「性犯罪」変わりゆく沖縄―「二九五年」との熱量の相違
- 108 鹿児島県警「極悪非道」の本質
- 110 海上自衛隊―海の防人はなぜ汚れたか

- 80 金融の世紀―黒木亮
- 88 皇室の風―岩井克己
- 90 日本の科学アラカルト
- 92 新・大学評判記
- 94 本に遇う―河谷史夫
- 96 をんな千一夜―石井妙子
- 114 マスコミ業界ばなし

3 連載「巻頭インタビュー」小笠原博毅―オリンピックはもう死んでいる

●特別レポート

# 「凶弾」が変えた米国

同盟国が怯える「バイデン後」

- 6 問題多き「ハリス」の勝算
- 12 米民主党の奇妙な「致団結」
- 14 国際秩序が消えゆく世界―「ポリセントリック」時代の危うさ
- 16 ウクライナ「トランプ停戦」の胎動
- 18 和平案で有力な「北方領土方式」
- 22 WORLD●情報カプセル
- 22 「トルコ極右」が西欧で大暴れ―「灰色の狼」の不気味な台頭
- 24 サウジが「媚トランプ路線」に邁進
- 28 カマラ・ハリスを支える「アジア人脈」―期待を寄せる中国とインド
- 30 世界「人材争奪戦」が一層過酷に―中印も人手不足が深刻化
- 32 タイ社会を蝕む「ギャンブル」―「カジノ合法化」へ危うい邁進
- 34 韓国高齢者「残酷物語」―儒教の国に蔓延する「虐待と貧困」
- 36 習近平「独裁」に兆した陰り
- 38 連載「現代史の言霊」八月の遠足―ハンガリー「国境開放」二九八九年
- 44 政治●情報カプセル
- 46 海自不祥事は「陸」が刺したのか
- 48 岸田延命の「裏技」
- 52 連載「政界スキャンダル」それでも石破は総理になれない
- 54 小泉進次郎の背後に「森喜朗」
- 56 凋落「維新」空中分解の瀬戸際―悩みは「兵庫県知事のみならず」
- 58 連載「罪深きはこの官僚」中嶋浩一郎「防衛防衛審議官」―「パワハラ」常習でもままと栄進



バイデン「死に体」化で、外交舞台は長期の「米国不在」となる。トランプなら史上最悪の孤立主義に走り、海外関与からの撤退が相次ぐ事態に。ハリスでも前任者踏襲を共和党が許さない。米外交停滞は長引く。(6頁)



寄る辺の麻生は岸田に嘯く。「あんたが出れば、茂木は出ない」。幹事長抜擢の鼻薬を嗅がされた石破は「岸田さんの再選もありだな」。勝ち筋が見えない総裁候補を逐次籠絡し、なおも再選を諦めない鈍感力。(48頁)

- 60 米国「利下げ相場」異変の先行き
- 62 「クソリのアオキ」を脱む蛇二匹―やがて「ツル」の二の舞か
- 64 鹿島と日本原燃「不正入札」の腐臭
- 67 連載「クローズアップ」
- 68 小林一雅「小林製薬前会長」―辞任後も「高額報酬」の破廉恥
- 70 川崎重工「海自裏金接待」の不可解―「動機」は何だったのか
- 72 ホンダと日産「協業」の内情
- 74 「三菱自」入流でも危うい関係
- 72 「安いニッポン」製造業の哀切―円安・賃金安・高齢者が支える現実
- 74 経済●情報カプセル
- 78 連載「地方金融の研究」のと共栄信用金庫―進まぬ震災復興で揺れる経営
- 82 トヨタ「下請法違反」は際限なし―章男が元凶「弱者搾取」の宿病
- 84 連載「企業研究」KADOKAWA

OBは悲憤する。「夏野は被害者のように振る舞っているけれど、加害者でもあることを忘れて。公益性のある事業体だという自覚が見えない」。出版と教育の二大柱で信頼崩壊。会社を覆う暗雲は深まった。(84頁)

